

箱根観光セミナー — 箱根の観光振興 —

世界遺産と観光振興

平成27年11月11日

(一財)運輸政策研究機構 運輸政策研究所
主任研究員 小室 充弘

本日の発表内容

1. 世界遺産観光についての問題意識 3頁
2. 世界遺産とは何か 4～8頁
3. 世界遺産観光を巡る状況 9～14頁
4. 石見銀山でのケーススタディ 15～23頁
5. 持続的な観光振興に向けて 24～30頁

1. 世界遺産観光についての問題意識

観光振興は地域活性化の有効な手法

観光資源の発掘・磨き上げ・情報発信が不可欠

ユネスコの世界遺産が観光資源として注目を集める。
富岡製糸場：登録後の1年間で訪問者が4倍の伸び

- 観光需要の伸びは一過性のものではないのか。
観光需要を長期的に維持・確保できるか。
- 世界遺産は、人類共通の財産として守り伝えるべきもの。
観光振興と世界遺産保全を両立させることはできるか。

2. 世界遺産とは何か

(世界遺産の概念)

- ・世界遺産条約に基づいて、ユネスコの世界遺産リストに登録された、人類が共有すべき「顕著な普遍的価値」を持つ物件
＝人類全体の「お宝」
世界文化遺産／世界自然遺産／世界複合遺産
- ・世界遺産保有国は、登録遺産を保護・管理する責任。
 - ユネスコの世界遺産委員会が6年毎に保全状況を審査
 - 世界遺産の保全に重大な支障が出ている場合には危機遺産リストに掲載。状況如何では登録抹消。

(世界遺産の登録状況)

○世界遺産の件数は著しく増加



○文化遺産の多様化

歴史的な建造物、市街地、遺跡のほか、産業遺産、文化的景観、現代建築、先史時代の遺跡の登録も進む。

○地理的には依然として欧州の比率が高い。

- ・世界遺産全体の約4割、文化遺産の約5割が欧州に存在
- ・国別では、①イタリア51件②中国48件③スペイン44件④フランス41件⑤ドイツ40件……⑪日本19件

モン・サン・ミシュエル



フィレンツェ歴史地区



ギザの三大ピラミッド



ウルグァイの食肉・加工工場



フィリピンの棚田の景観



ベルリンの集合住宅



(日本の世界遺産)

○1993～2015年に19件が世界遺産登録(文化15、自然4)

- 1993年 姫路城、法隆寺、屋久島、白神山地
- 1994年 京都の文化財
- 1995年 白川郷・五箇山
- 1996年 厳島神社、原爆ドーム
- 1998年 奈良の文化財
- 1999年 日光の社寺
- 2000年 琉球グスク群
- 2003年 紀伊山地の霊場と参詣道
- 2005年 知床
- 2007年 石見銀山
- 2011年 平泉、小笠原諸島
- 2013年 富士山
- 2014年 富岡製糸場と絹産業関連遺産
- 2015年 明治日本の産業革命遺産

○今後のユネスコでの審査予定(文化2件)

- 2016年 長崎の教会群とキリスト教関連遺産群
- 2017年 宗像・沖ノ島

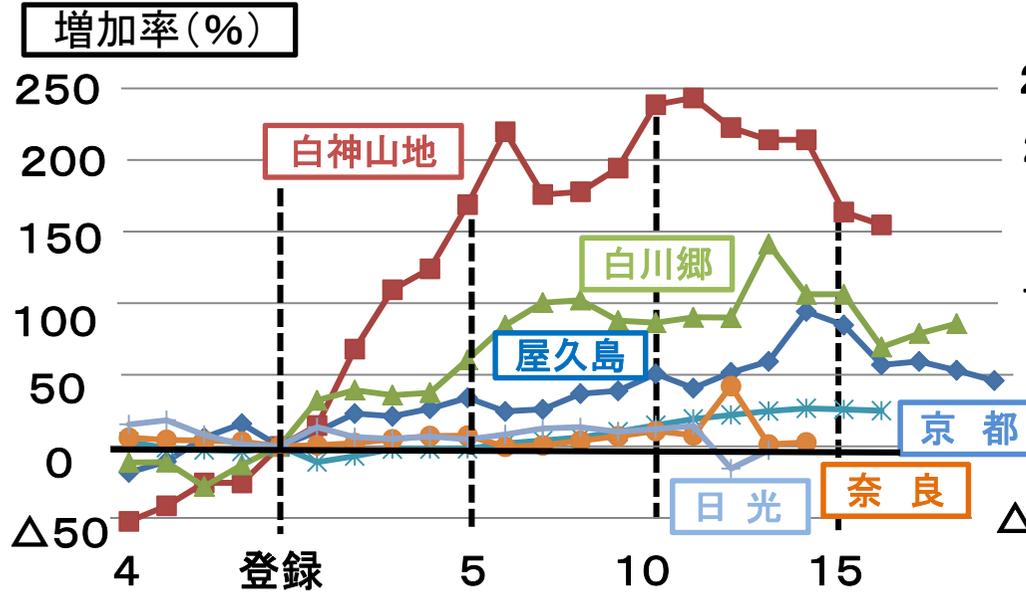
- ・最近、登録のペースが加速。
- ・著名な観光地・観光施設ではない世界遺産も増加。

3. 世界遺産観光を巡る状況

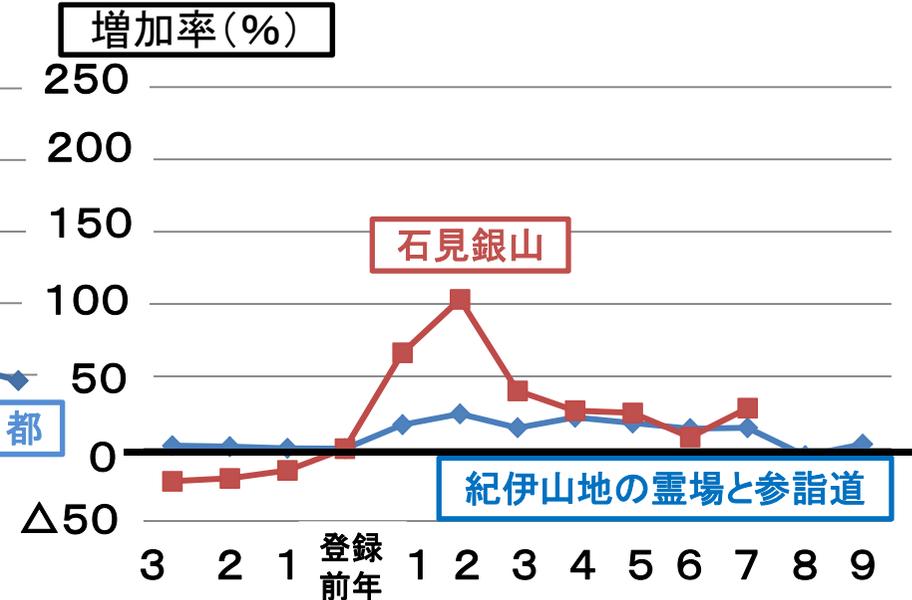
○日本国内の世界遺産について登録後の観光客数の推移を比較

- ・登録前は著名な観光地ではなかった世界遺産において登録を契機に観光客が大幅に増加する例が目立つ。
屋久島、白神山地、白川郷・五箇山、
紀伊山地の霊場と参詣道、石見銀山、富岡製糸場
- ・登録前からの著名な観光地
京都、奈良、日光
堅調に推移又は下げ止まり
法隆寺、姫路城、厳島神社、原爆ドーム
登録にもかかわらず観光客が減少

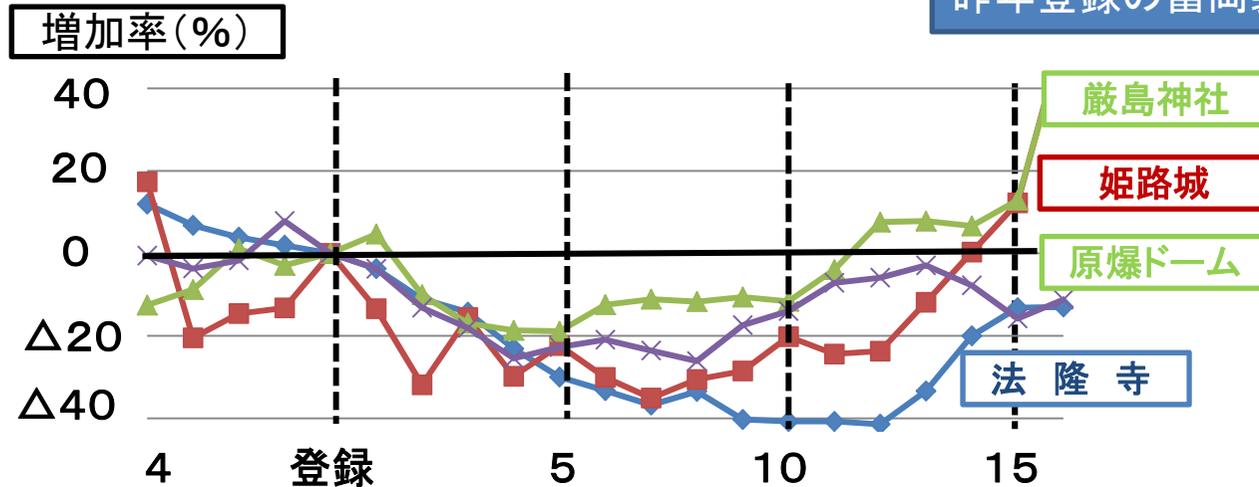
2000年以前に登録
(12月登録。登録翌年から観光客の増効果)



2001年以後に登録
(6月登録。登録年から観光客の増効果)



昨年登録の富岡製糸場は300%以上の増加



○世界遺産登録は著名でない観光地の観光需要誘発に大きな効果

○長期的には観光客数は減少・横ばいに転じる傾向。

しかも、登録からピークまでの期間が次第に短縮

屋久島(1993年登録)	14年
白神山地(1993年登録)	11年
白川郷(1995年登録)	13年
紀伊山地の霊場と参詣道(2004年)	3年
石見銀山(2007年)	登録の翌年

○観光客の増加により経済面・社会面でプラスの効果が生じる一方世界遺産の保全、住民の生活環境に対するマイナスの影響が顕在化しているとの報告もある。

○登録を契機に観光客が大幅に増加した世界遺産の事例①
 ～ 屋久島(1993年登録、自然遺産、鹿児島県屋久島町) ～

観光客数の推移

(単位:万人)

1992	1993	1994	1995	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012
24	21	23	26	32	29	32	33	41	39	33	33	32	31

- ・縄文杉等山岳部を中心に観光客が増加、宿泊客が約7割
- ・経済面・社会面でプラスの効果
 - 人口減少及び高齢化の抑制、就業人口の維持、観光業者の増加(20年間で宿泊施設は3倍、ガイドは8倍)
 - 島民の誇りの高まり、山岳信仰「岳参り」の再興
- ・その一方で、植生への影響、し尿処理等の問題が深刻化
 - 2011年6月に屋久島町は縄文杉登山者の制限(1日420人)等に関する条例案を提出したが、観光業界の反対により否決。
 - その後、関係者で協議を重ねた結果、2016年度より、入山協力金を徴収する方針を決定

○登録を契機に観光客が大幅に増加した世界遺産の事例②

～ 白川郷の合掌づくり集落

(1995年登録、文化遺産、岐阜県白川村) ～

観光客数の推移

(単位:万人)

1994	1995	1996	1997	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
67	77	102	107	144	147	147	186	173	159	131	138	143

- ・観光客のうち、宿泊客は10万人足らずで、殆ど変化なし。
- ・大半が日帰り客で滞在時間は2～3時間程度。
経済的な波及効果は限定的。遺産への理解も深まらない。
- ・その一方で、負の影響は顕在化
観光車両による交通渋滞
観光客向け駐車場の設置等による景観の悪化
→ユネスコの専門機関(イコモス)から是正勧告を受ける。
- ・登録後15年以上が経過した時点で観光車両の交通規制を導入、
合掌集落地区内の駐車場を全廃

○登録を契機に観光客が大幅に増加した世界遺産の事例③

～ 石見銀山(2007年登録、文化遺産、島根県大田市) ～

観光客数の推移

(単位:万人)

2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
31	32	34	40	74	81	56	51	50	43	52

- ・観光客数は登録により倍増。登録の翌々年には減少に転じる。
- ・観光振興と遺産保全・生活環境の調和に向けた進取的な取組み
 - 地方自治体、各種団体、住民代表が登録前から対応策を協議
 - 登録時にパーク&ライド方式の導入、基金の創設 等
- ・それでも、観光振興と遺産保全等の間にジレンマが存在
 - 観光需要に応じて世界遺産地区内の路線バスを増便・増発したところ、安全・騒音・振動等の問題が発生
 - 住民要望で登録翌年に路線バスを廃止したところ、観光客数はピーク時よりも減少

4. 石見銀山でのケース・スタディ

(石見銀山をケース・スタディの対象に選んだ理由)

- ・登録後に観光需要は急増したが、短期間で頭打ち
- ・観光振興と遺産保全・生活環境との間にジレンマが存在

(ケーススタディの内容)

- ・地方自治体(大田市、島根県)へのヒアリング
- ・地場企業、自治会の代表など地域の関係者へのインタビュー
- ・観光客へのアンケート調査

実施時期: 2014年8月及び9月

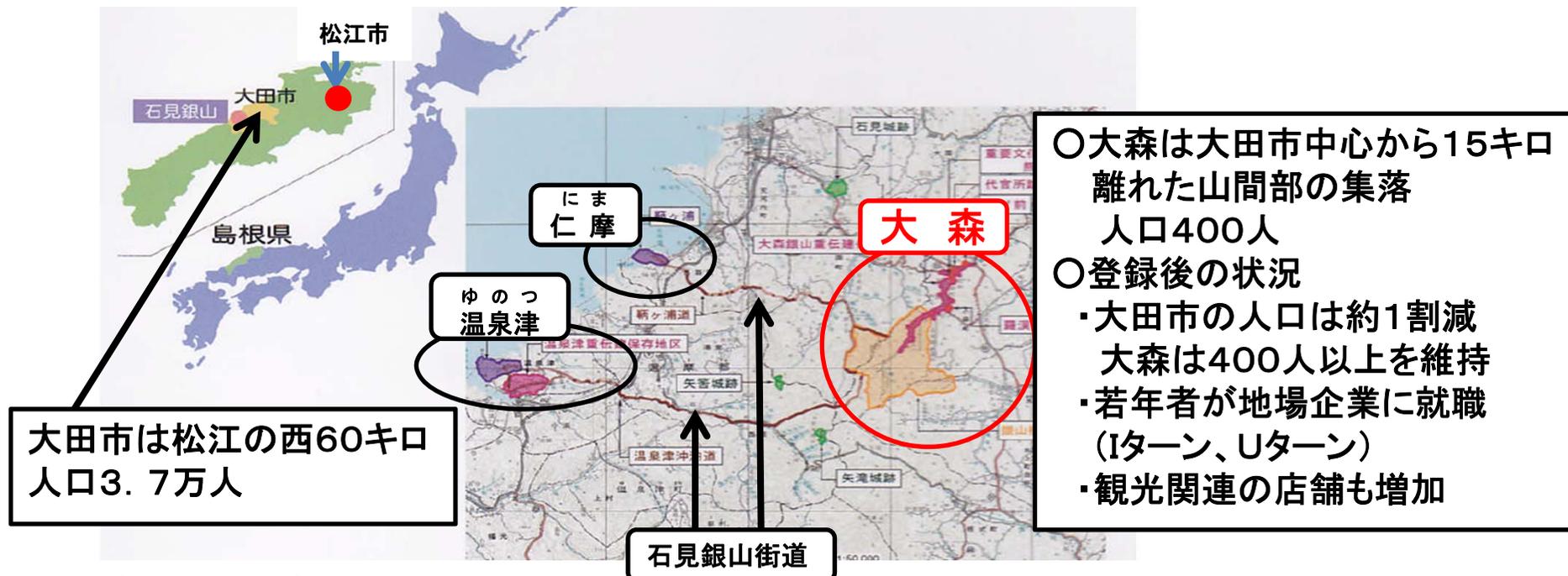
サンプル数: 個人465、団体236



持続的な観光振興に向けた課題事項の整理

(世界遺産の概要)

- ・島根県大田市に所在
- ・鉱山遺跡・鉱山町(大森)、銀の積出港・港町(温泉津、仁摩)
石見銀山街道で構成



(登録の理由)

- ・東西文明の交流に大きな影響
大航海時代に世界の銀の1/3を産出
- ・環境に配慮し、自然と調和した鉱山運営
鉱山遺跡は禿山が多い。石見銀山は緑豊かな自然が残る。

坑道(龍源寺間歩)



鉾山町の町並み



大森地区

坑道(龍源寺間歩)

地区内バス路線の増発



住民の生活環境や遺産
保全に係る問題の発生



地区内バス路線の廃止
徒歩観光に転換

2.3km

0.8km

アクセスバス

大森の鉾山町

地区外の駐車場

石見銀山(大田市大森地区)の観光地としての条件

○大都市圏からのアクセスはよくない



○主な観光資源・観光施設

鉱山遺跡
間歩(坑道)等

鉱山町の町並み

里山の自然

世界遺産センター
神社・寺院
石見銀山街道 等

※温泉はない。宿泊施設も殆どない。(3軒、収容力は数十人)

○地区内の移動手段

- ・徒歩、自転車(レンタサイクル)又はベロタクシー
- ・大田市では、高齢者等限定で小型電気バスの導入を検討中



(地方自治体(大田市、島根県)へのヒアリング)

- 観光客数はピーク時よりも減少しているが、今後も世界遺産ブランドで一定の需要は確保できる。
- 質の高い観光客の確保とリピーター化、市内周遊による滞在時間の延長を重視。(大森+温泉津・仁摩+三瓶温泉等)
- 現状では、観光と遺産保全、生活環境が概ね調和。
官民拠出の保全基金があるので、観光客の協力金は不要。

(地場企業、住民代表へのインタビュー)

- 世界遺産登録について大森地区には賛否両論あったが、現在は概ね肯定的な評価がなされている。(観光客の来訪による賑わい、若い世代の就労、人口の下げ止まり等)
- 観光客の適正規模、高齢者の移動手段、観光客の協力金等については、意見の相違が存在。
- 大田市や観光協会による意見調整・集約を期待しているが、公共の側の反応は鈍い。

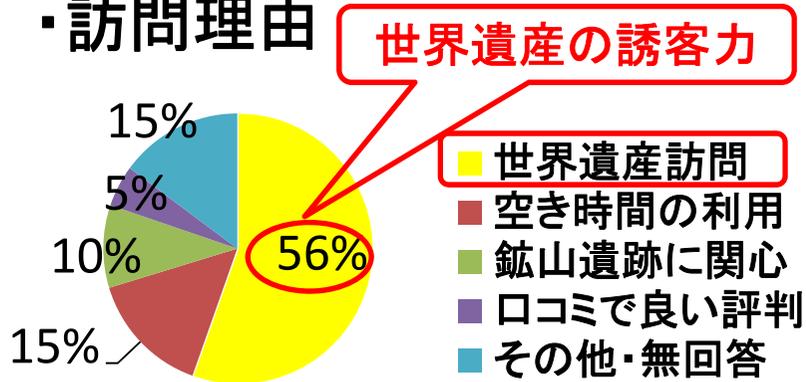
(観光客アンケート)

○観光客の属性(個人客)

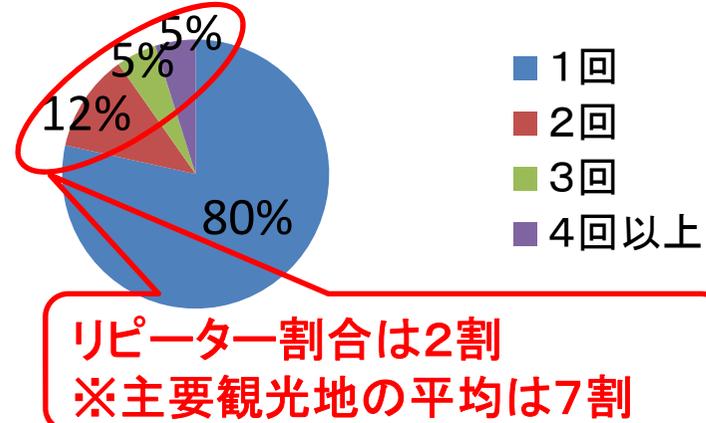
・居住地・・・全国に分散



・訪問理由



・訪問回数



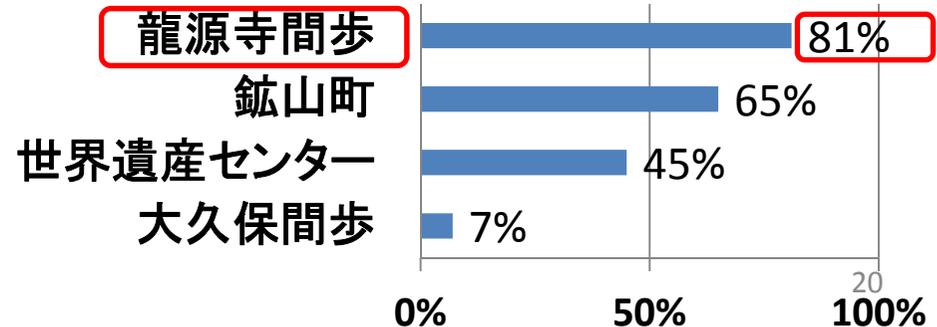
○観光客の活動実態(個人客)

3時間未満の滞在で龍源寺間歩を中心に観光する傾向

・滞在時間

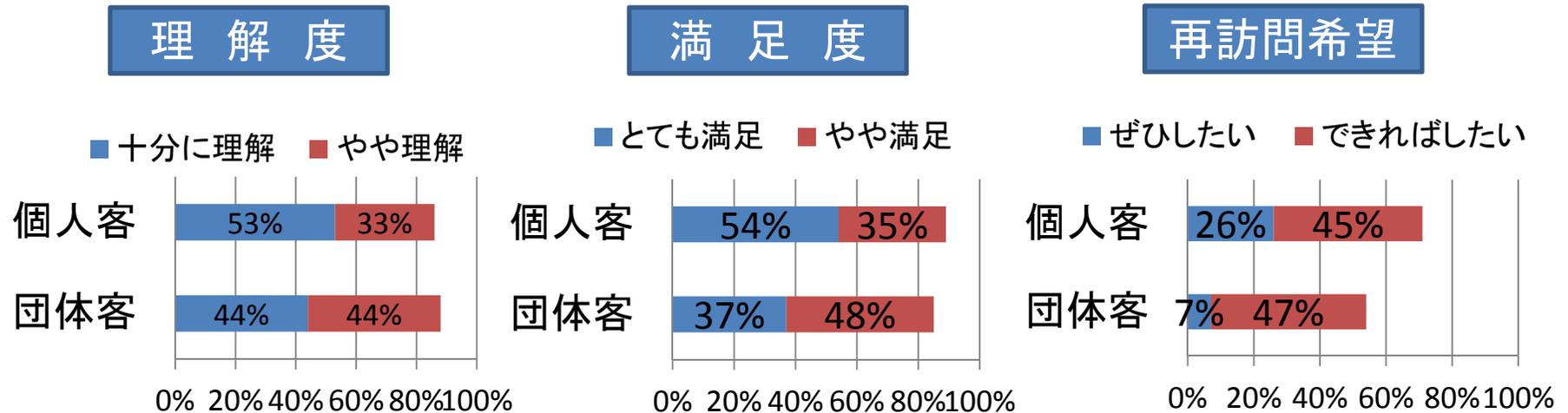


・訪問先



○世界遺産保全の理解度、観光の満足度、再訪問希望

- ・理解度、満足度はかなり高いが、再訪問希望はやや低い。



リピーターを増やすには、どうすればよいか

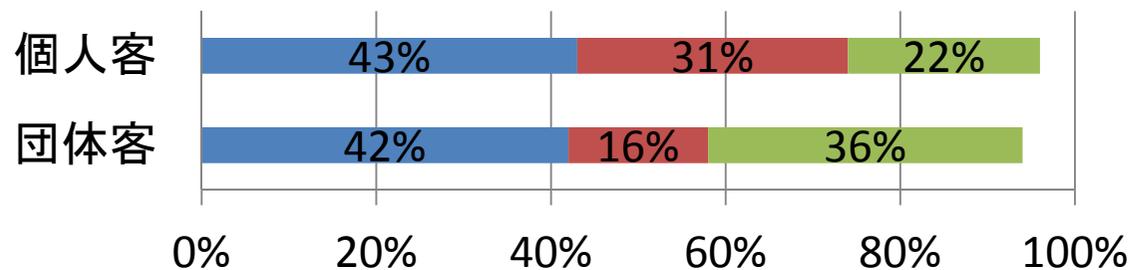
- ・「ぜひ再訪問したい」と回答した観光客の特徴
 - 「理解度」「満足度」の高い人ほど「ぜひ再訪問したい」の割合が高い
 - 訪問理由は「世界遺産の価値や歴史に関心」「口コミで良い評価」
 - 鉱山町散策時に食事や買物を堪能
- ・再訪問を希望しない理由
 - 「世界遺産を一度訪問できれば満足」「訪問スポットが少い」
 - 「石見銀山までのアクセス・地区内の移動が不便」

○観光振興と世界遺産保全、住民生活の調和

- ・大森地区内の移動手段は「徒歩で構わない」が4割強。「レンタサイクル等の充実」「利用者限定の小型バス」といった移動手段の改善を求める意見も5割。
- ・観光客への課金は比較的理解が得やすい雰囲気

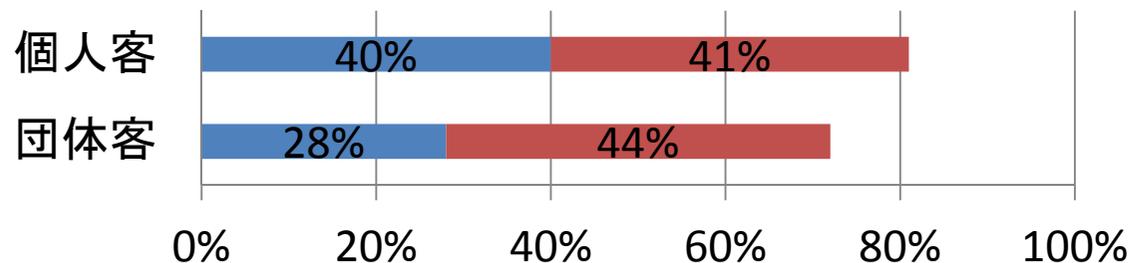
大森地区内の移動手段のあり方

■ 徒歩で構わない ■ レンタサイクル等の充実 ■ 利用者限定の小型電気バスの運行



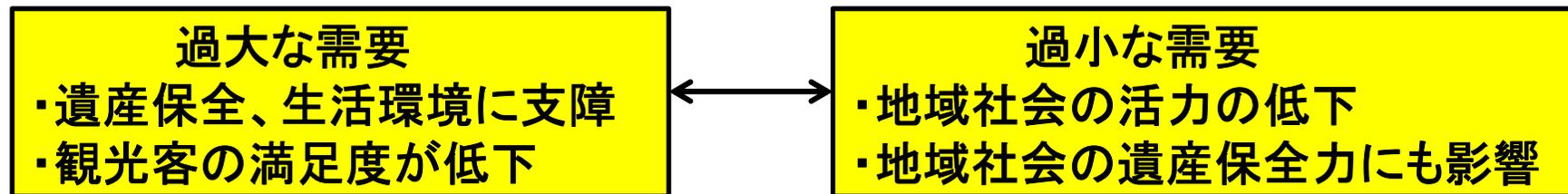
遺産保全に対する観光客の資金面での協力

■ 協力すべき ■ どちらかと言えば協力すべき



(持続的な観光振興に向けた課題事項の整理)

- 世界遺産登録は初来訪者を中心に観光客の誘致に極めて大きな効果を発揮。
 - しかし、登録のみでは需要増の効果は持続しない。
 - 長期・安定的な需要の確保のためには、マーケットニーズを踏まえた戦略的な取組みが必要
- 観光振興と遺産保全、住民生活の調和が不可欠



状況に応じて、地域の関係者間で、観光需要の適正規模、協力金の徴収等を検討することも必要

5. 持続的な観光振興に向けて ～世界遺産登録をモデルケースにした提言～

○世界遺産登録のような強力なインパクトが生起すれば、知名度の低い地域でも全国的な観光地に飛躍し得る。

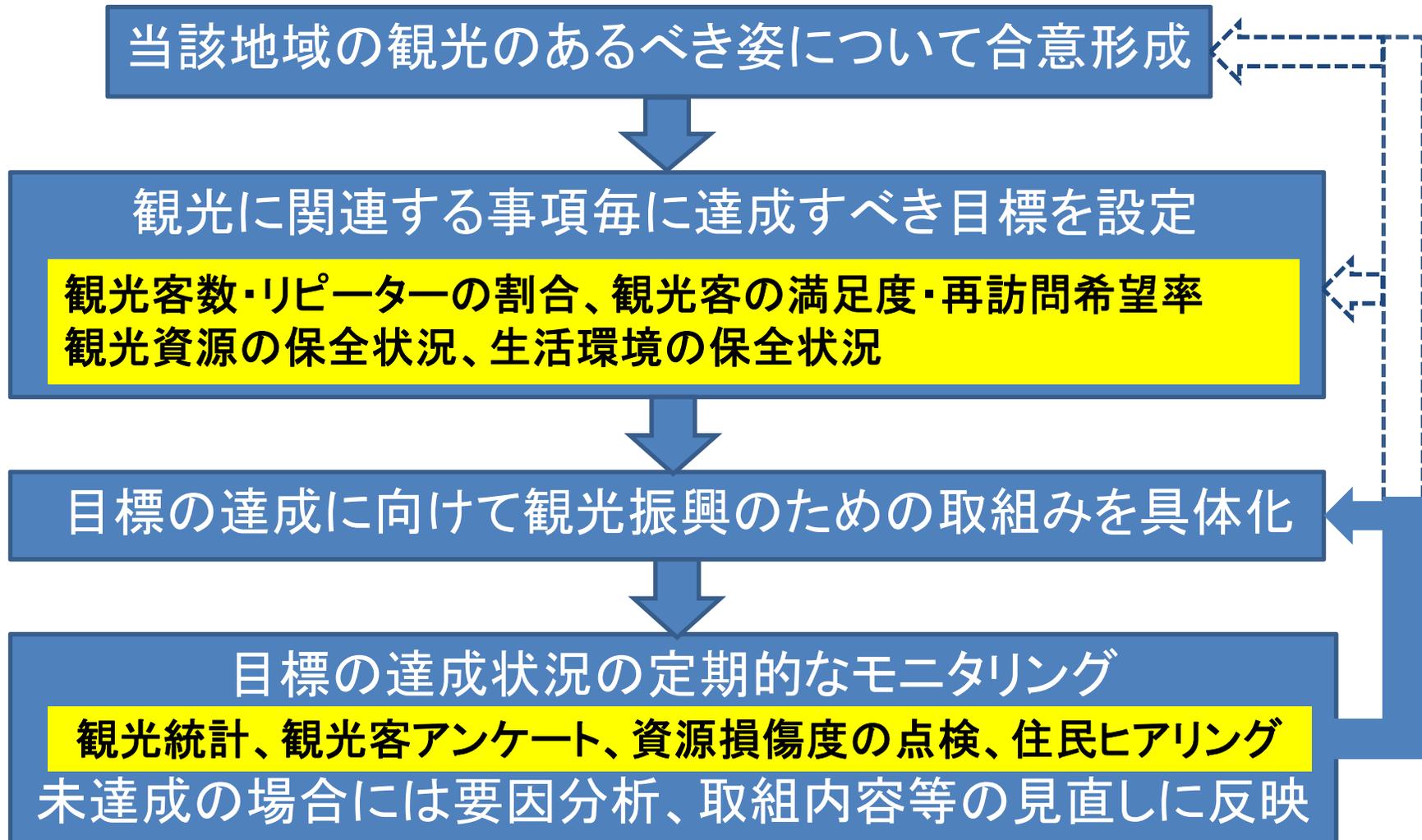
○しかし、それだけでは需要増の効果は続かない。
また、無制限な需要増は、観光資源の保全等に支障をもたらす。

○持続的な観光振興に向けて次のような対応を講じることが必要

- ①地域の関係者による協議・連携体制の構築
目標の設定とモニタリング
- ②観光地としてのライフサイクルを見据えた対処
- ③長期・安定需要の確保、観光振興と観光資源保全等の調和
に向けた戦略的な取組み

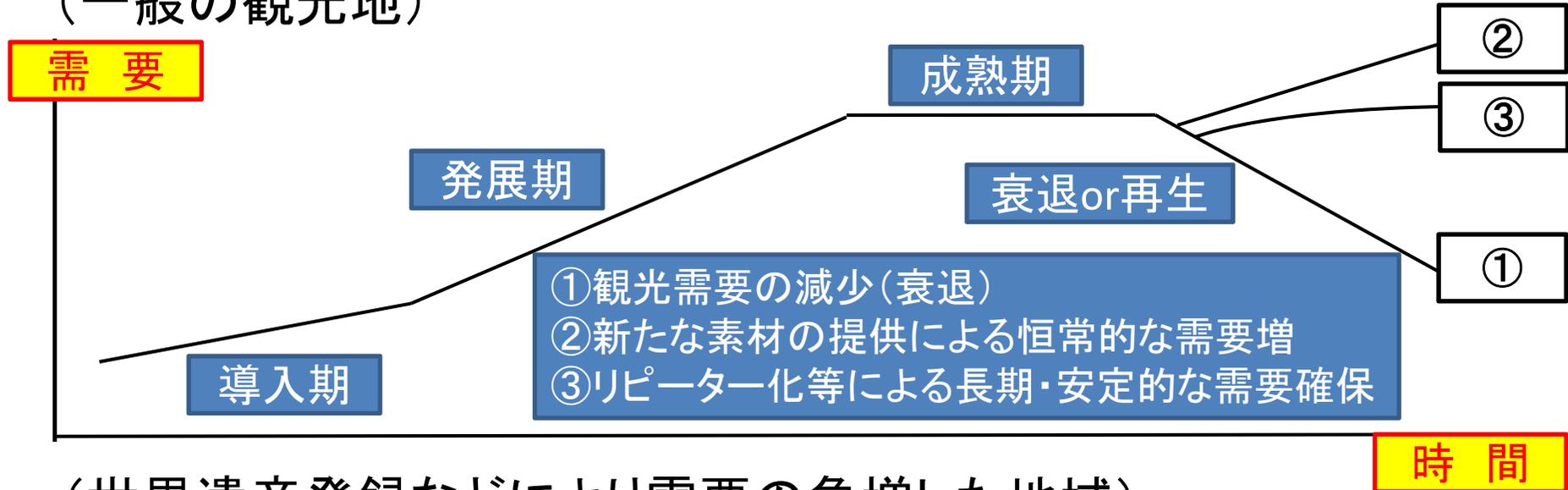
○地域の関係者による協議・連携体制の構築

地方自治体、各種団体、住民代表十国、有識者、旅行会社 等

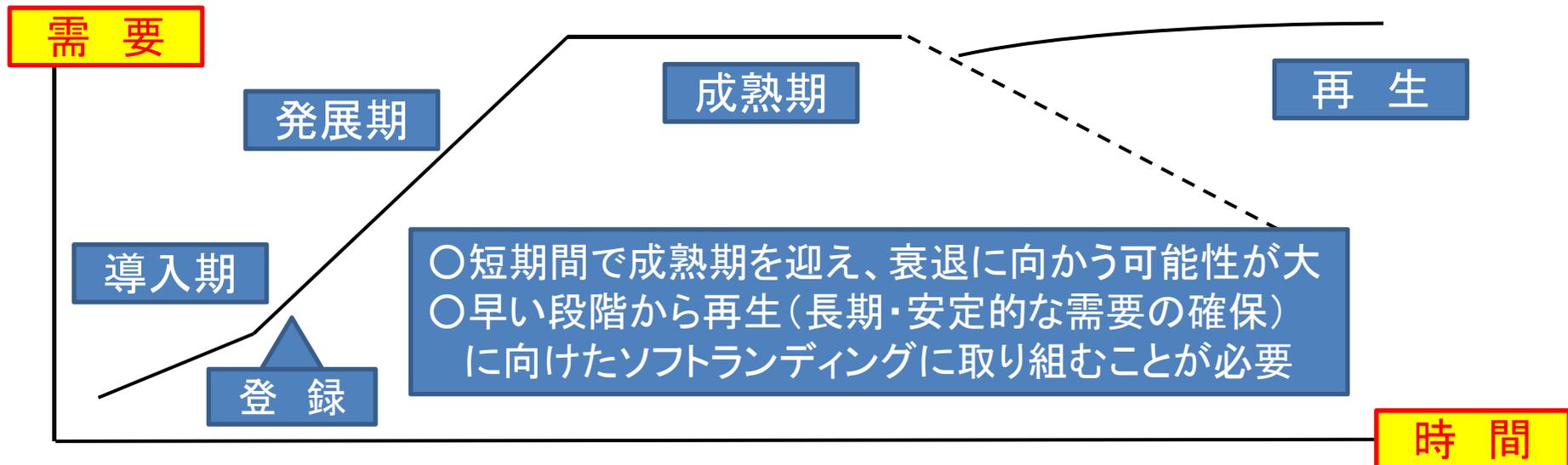


○観光地としてのライフサイクルを見据えた対処

(一般の観光地)



(世界遺産登録などにより需要の急増した地域)



○長期・安定需要の確保に向けた戦略的な取組み

定期的にマーケティング調査を実施



- ・リピーター化しやすい層の抽出・重点的な誘致活動
- ・再訪問の契機となるような魅力の創出

食事・土産・特産品、交流・体験メニュー、季節毎に異なる見所の提供、
周辺地域と連携した周遊観光ルート 等

- ・再訪問希望を損なう要因への対処

空港等からの直行バス、高齢者等に配慮した地区内移動手段の整備 等

○観光振興と観光資源保全等の調和に向けた戦略的な取組み

- ・必要に応じて、需要管理、交通規制、協力金の徴収等を検討
- ・観光資源等に過大な負荷がかからない観光振興策の工夫
観光需要の拡大よりも滞在時間の延長に重点
観光需要の平準化・閑散期の需要喚起

観光立国・・・全国で観光振興に向けた取り組みが活発化

地域間における観光客獲得競争の激化

世界遺産のほか諸般の理由で人気の観光スポットが誕生
竹田城・・・「日本のマチュピチュ」「天空の城」
高尾山、伏見稻荷・・・訪日外国人が高評価

競争に勝ち残るためには、既存の観光名所においても、
観光資源の磨き上げと情報発信、誘致・受入体制の充実等
に取り組むことが不可欠。

世界遺産登録をモデルケースにした提言を何らかの
参考にしていただけることを期待

竹田城(兵庫県朝来市)



ご清聴ありがとうございました。